

株主・投資家のみなさまへ

第62期

中間事業報告書

平成17年10月1日～平成18年3月31日



プロセステクノロジーで未来を拓く

ホソカワミクロン 株式会社

株主のみなさまへ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

第62期中間決算期(平成17年10月1日～平成18年3月31日)の事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当社は、大正5年4月18日の創業以来、革新的な“粉体技術”を提供し続けることにより世界の産業に貢献することを企業理念としてグローバルな事業を展開してまいりました。本年4月、創業90周年を迎えることができましたのもひとえに株主の皆様各位のご支援とご理解の賜物と感謝申し上げます。

当期は新3ヵ年計画の初年度として「創造と基盤の強化」をスローガンに、新技術の創造とより強固な収益力基盤の確立を目指し取り組んでおりますが、過年度に亘り取り組んできた収益体質強化のための施策が実り、対前年同期比におきまして大幅な増益を計上することができました。特に受注面におきましては、新製品・新技術の寄与などにより大幅な受注増となりました。

このような状況を受け、当期業績も順調に推移する見通しとなりましたことから、株主の皆様各位の日ごろのご支援にお応えすべく、1株当たり2円50銭の中間配当を実施させていただくことといたしました。

当社グループでは本年3月末に機能性ナノコンポジットマテリアル生産工場として奈良県・五條市に新しい生産設備を稼働させました。今後のマテリアルビジネス拡大に向け、機能性ナノ複合粒子を配合した独自ブランドの化粧品『ナノクリスフェア』及び養毛料『ナノインパクト』を戦略製品として拡販を図るとともに、その技術を応用した新素材開発を積極的に展開してまいります。

粉体技術分野における世界のトップ企業として、つねに新技術・新製品を提供することにより、次世代技術と産業の発展に貢献してまいります。

最後に、株主のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

代表取締役社長

細川益男

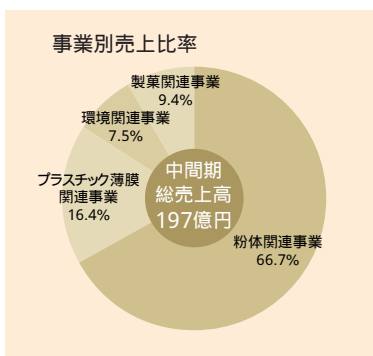


営業の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、昨年10～12月期の成長率は前期比年率4.3%と7～9月期の前期比年率0.8%を大幅に上回ったのに続き、1～3月期も年率換算で1.9%の成長となり、個人消費と設備投資の内需が主導した巡航速度の成長を維持しました。米国についても、概ね順調なペースで景気拡大を続けており、今後も3.5%程度とみられる潜在成長率前後での成長が見込まれます。一方、欧州につきましては、緩やかながらも景気は回復基調にあるものの、ユーロ高、失業率の高止まり、個人消費の横ばい等の懸念材料が依然として解消されず、力強い景気の回復にはいたしませんでした。またアジアにおきましては原油価格の高騰に伴う経済へのマイナスの影響は最小限に食い止められ、中国では設備投資や輸出を中心に依然として高い成長率を維持しております。

このような環境の中、当企業グループでは、積極的に営業展開を推し進めるとともに、原価の低減やコストの削減に取り組みました。

当中間連結会計期間の業績は、受注高は、244億9千3百万円（前年同期比26.8%の増加）、受注残高は166億3千5百万円（前年同期比49.6%の増加）、売上高は197億円で前年同期比3.7%の増収となりました。利益面におきましてはグループ一丸となった原価、販売費及び一般管理費の削減活動により収益性は一層改善し、営業利益10億4千万円（前年同期比53.1%の増加）を計上することができました。また、経常利益も11億8千7百万円（前年同期比2.7倍）の利益を計上いたしました。中間純利益につきましても7億6千1百万円（前年同期比1.8倍）となりました。

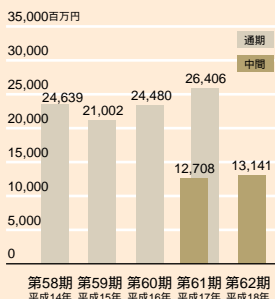


事業別の概況

粉体関連事業

同事業は、粉碎・分級装置、混合・乾燥装置を中心に当企業グループの主力製品が多くを占める分野であります。世界的な原油価格高騰の中、米国経済は依然として好調に推移している一方で、ユーロ経済は依然低迷しているものの欧州ユニットの輸出拡大等でIT関連(電子材料、トナー、磁石)、ミネラル、樹脂、カーボン及び食品市場を中心に全般的に好調に推移いたしました。この結果、当中間連結会計期間の受注高は166億9千8百万円(前年同期比17.6%の増加)、受注残高は115億4千万円(前年同期比41.0%の増加)となり、外部売上高も131億4千1百万円(前年同期比3.4%の増加)となりました。また、営業利益も8億5千1百万円(前年同期比19.2%の増加)となりました。

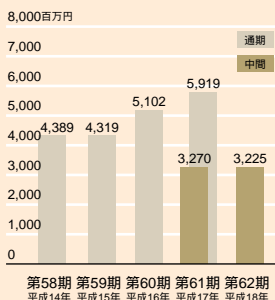
粉体関連事業売上高推移



プラスチック薄膜関連事業

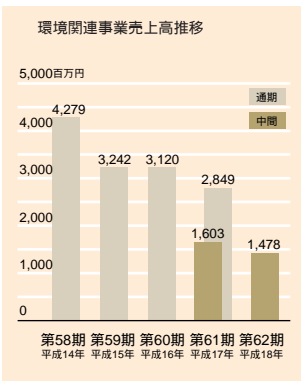
同事業は、欧州と米国市場を中心に食品包装、日本市場に多機能性フトレジスト、マスキング多層フィルム等の用途をもつプラスチック薄膜の生産システムを開発、製造、販売しており、欧米市場を主力としています。原油価格高騰による世界的な原料樹脂の価格上昇も昨年秋に一段落し高値安定状態にあります。利益幅の大きな高機能フィルム、多機能多層フィルム分野において主力市場である欧州、北米での設備投資が回復し受注高も大幅な伸びを示しており、日本国内も同様に推移しております。この結果、当中間連結会計期間の受注高は49億5千6百万円(前年同期比153.1%の増加)となりました。また受注残高も35億5千6百万円(前年同期比133.8%の増加)となりましたが、外部売上高は32億2千5百万円(前年同期比1.4%の減少)にとどまりました。営業利益は1億6千9百万円(前年同期比7.0%の増加)となりました。

プラスチック薄膜関連事業売上高推移



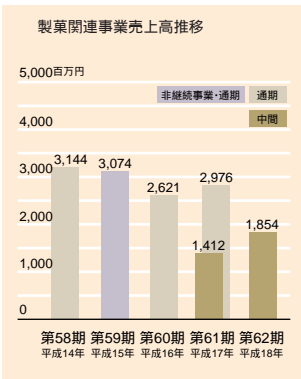
環境関連事業

同事業は、日本市場において大気汚染防止装置及び精密空調制御装置の製造、販売をしております。焼却炉用大気汚染防止装置は昨年同様に低調でしたが、化学・食品・電子部品関係の生産工場用設備が特に好調で受注は大きく進展いたしました。一方、精密空調装置については液晶関連が昨年並みに推移したのに対し、DVD関連、病院関連がいずれも低調でした。この結果、受注高は17億6千4百万円(前年同期比5.3%の増加)となり、受注残高も8億6千6百万円(前年同期比53.0%の増加)となりましたが、下半期納期の案件が多かったため、外部売上高は14億7千8百万円(前年同期比7.8%の減少)にとどまりました。営業利益は、付加価値の高い小型製品の開発や中型機のコストダウン設計に注力してきました結果、2億3千7百万円(前年同期比14.4%の増加)となりました。



製菓関連事業

同事業は、欧米を中心にハードキャンディ、チョコレートバー、ベーカリー等の製菓装置の製造販売、エンジニアリングを手掛け、原料から最終製品まで完結する総合システムを提供しています。主要市場の米国、欧州における拡販の他、豪州、中近東、アジア等において、新市場の開拓を図ってまいりました。この結果、当中間連結会計期間の受注高は10億7千4百万円(前年同期比28.1%の減少)となりました。受注残高も6億7千2百万円(前年同期比20.3%の減少)となりました。外部売上高は18億5千4百万円(前年同期比31.3%の増加)となり、営業利益は1億5千7百万円(前年同期比138.3%の増加)となりました。



中間連結財務諸表

比較中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 平成18年3月31日	前中間期末 平成17年3月31日	前期末 平成17年9月30日
資産の部			
流動資産	20,943	19,378	20,104
現金及び預金	3,906	2,902	3,814
受取手形及び売掛金	10,886	10,332	10,395
有価証券	293	350	409
たな卸資産	4,586	4,559	4,490
繰延税金資産	663	577	574
その他の流動資産	742	820	556
貸倒引当金	135	164	136
固定資産	17,937	17,873	17,378
有形固定資産	13,282	13,499	13,245
建物及び構築物	12,559	12,233	12,202
機械装置及び運搬具	8,147	7,849	7,871
土地	4,959	4,927	4,911
建設仮勘定	64	25	32
その他	1,926	1,807	1,849
減価償却累計額	14,375	13,344	13,621
無形固定資産	3,025	2,980	2,916
営業権	2,954	2,885	2,833
その他	71	94	82
投資その他の資産	1,629	1,393	1,217
投資有価証券	1,248	977	832
繰延税金資産	120	123	120
その他	302	359	348
貸倒引当金	42	66	85
繰延資産	41	39	35
新株発行費	32	17	23
社債発行費	8	22	11
資産合計	38,922	37,291	37,519

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 平成18年3月31日	前中間期末 平成17年3月31日	前期末 平成17年9月30日
負債及び資本の部			
流動負債	13,158	12,039	12,389
支払手形及び買掛金	4,934	4,944	4,824
短期借入金	649	799	708
1年以内返済予定長期借入金	400	630	400
未払費用	2,354	2,101	2,203
未払法人税等	208	63	395
繰延税金負債	87	43	36
賞与引当金	386	307	428
役員賞与引当金	20		
製品保証等引当金	786	662	765
前受金	2,277	1,389	1,536
その他	1,053	1,095	1,091
固定負債	4,774	9,417	7,518
新株予定権付社債		4,300	2,600
長期借入金	600	1,029	800
繰延税金負債	302	256	266
退職給付引当金	3,573	3,462	3,455
役員退職給与引当金	260	323	355
その他	38	45	41
負債合計	17,932	21,456	19,908
少数株主持分	300	327	312
資本金	14,495	12,340	13,192
資本剰余金	5,206	3,061	3,909
利益剰余金	3,239	2,312	2,707
その他有価証券評価差額金	229	74	113
為替換算調整勘定	2,413	2,245	2,577
自己株式	69	35	47
資本合計	20,688	15,507	17,298
負債、少数株主持分及び資本合計	38,922	37,291	37,519

中間連結財務諸表

比較中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	自平成17年10月1日 至平成18年3月31日	自平成16年10月1日 至平成17年3月31日	自平成16年10月1日 至平成17年9月30日
売上高	19,700	18,995	38,151
売上原価	12,667	12,572	25,171
売上総利益	7,032	6,422	12,980
販売費及び一般管理費	5,992	5,743	11,426
営業利益	1,040	679	1,554
営業外収益	296	61	210
(受取利息・配当金)	(54)	(21)	(31)
(その他)	(241)	(40)	(178)
営業外費用	149	308	369
(支払利息)	(72)	(134)	(167)
(その他)	(77)	(173)	(201)
経常利益	1,187	433	1,395
特別利益	19	45	59
特別損失	307	89	413
税金等調整前中間(当期)純利益	899	389	1,040
法人税・住民税及び事業税	240	133	463
法人税等調整額	89	171	232
少数株主損失	13	3	14
中間(当期)純利益	761	430	825

比較中間連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	自平成17年10月1日 至平成18年3月31日	自平成16年10月1日 至平成17年3月31日	自平成16年10月1日 至平成17年9月30日
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	3,909	2,711	2,711
資本剰余金増加高			
新株予約権の行使による新株発行	1,296	349	1,197
資本剰余金中間期末(期末)残高	5,206	3,061	3,909
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	2,707	1,882	1,882
利益剰余金増加高			
中間(当期)純利益	761	430	825
利益剰余金減少高			
配当金	199		
役員賞与	30		
利益剰余金中間期末(期末)残高	3,239	2,312	2,707

比較中間連結キャッシュ・フロー計算書

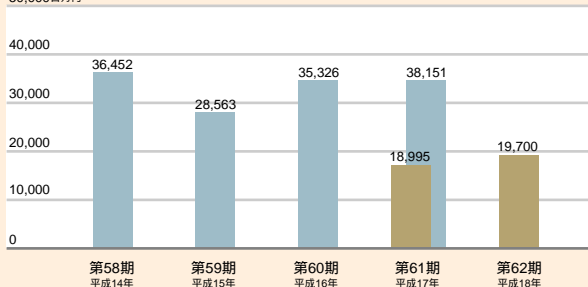
(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	自平成17年10月1日 至平成18年3月31日	自平成16年10月1日 至平成17年3月31日	自平成16年10月1日 至平成17年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,065	1,213	2,889
投資活動によるキャッシュ・フロー	676	583	379
財務活動によるキャッシュ・フロー	505	3,936	4,517
現金及び現金同等物に係る換算差額	61	26	54
現金及び現金同等物の減少額	54	2,165	1,194
現金及び現金同等物の期首残高	4,223	5,418	5,418
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	30		
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	4,199	3,252	4,223

業績推移

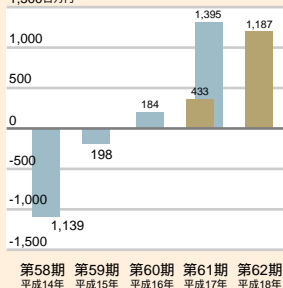
売上高

50,000百万円



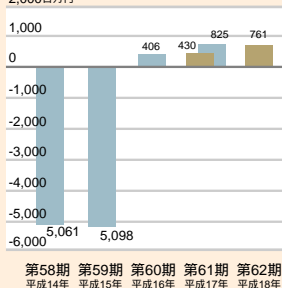
経常利益

1,500百万円



当期純利益

2,000百万円



中間単体財務諸表

比較中間貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 平成18年3月31日	前中間期末 平成17年3月31日	前期末 平成17年9月30日
資産の部			
流動資産	14,169	14,033	14,854
固定資産	13,495	13,659	13,382
有形固定資産	7,456	7,937	7,786
無形固定資産	17	20	17
投資その他の資産	6,021	5,701	5,578
繰延資産	41	39	35
資産合計	27,706	27,732	28,272
負債の部			
流動負債	4,278	5,004	5,234
固定負債	2,462	7,057	5,197
負債合計	6,741	12,062	10,432
資本の部			
資本金	14,495	12,340	13,192
資本剰余金	5,206	3,061	3,909
資本準備金	5,206	3,061	3,909
利益剰余金	1,103	230	672
中間(当期)末処分利益	1,103	230	672
その他有価証券評価差額金	227	72	112
自己株式	69	35	47
資本合計	20,964	15,670	17,839
負債及び資本合計	27,706	27,732	28,272

比較中間損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 自平成17年10月1日 至平成18年3月31日	前中間期 自平成16年10月1日 至平成17年3月31日	前 期 自平成16年10月1日 至平成17年9月30日
経常損益の部			
営業損益の部			
売上高	6,508	7,066	14,189
売上原価	3,963	4,554	9,060
販売費及び一般管理費	1,972	2,053	4,069
営業利益	572	459	1,058
営業外損益の部			
営業外収益	379	175	355
（受取利息及び配当金）	（111）	（112）	（230）
（その他の営業外収益）	（268）	（62）	（124）
営業外費用	72	227	250
（支払利息）	（16）	（107）	（133）
（その他の営業外費用）	（55）	（120）	（117）
経常利益	880	407	1,162
特別損益の部			
特別利益	4	0	
特別損失	315	0	296
税引前中間(当期)純利益	570	407	866
法人税・住民税及び事業税	7	16	33
法人税等調整額	98	175	175
中間(当期)純利益	660	566	1,008
前期繰越利益(損失)	443	335	335
中間(当期)未処分利益	1,103	230	672

ホソカワミクロン 創業90周年記念式典

当社は、2006年4月18日に創業90周年を迎えました。

同日、世界に展開するグループ各社のマネジメントが来日し、テレビ会議システムを利用して国内全事業所参加のもと、厳粛な記念式典を行いました。

また、同記念式典の開催と合わせて、当社グループの国際戦略の要となる「COOマネジメント会議」及び「国際研究開発会議」を開催しました。

COOマネジメント会議

当社グループの国内外主要会社のトップが集まって、グローバル経営戦略を討議するとともに、各ユニットの執行状況を監視することを目的として、1年に数回「COOマネジメント会議」を開催しています。

世界のトップ18名が本社に一堂に会して、3日間(4月19日~21日)にわたり、詳細な報告と今後の戦略について、積極的な議論を行いました。

国際研究開発会議

世界各地で活躍する研究開発リーダーが一堂に会して、お互いの研究開発の成果を発表するとともに、研究開発に関する世界戦略を討議することを目的として、1年に1~2回日米欧の持ち回りにより、「国際研究開発会議」を開催しています。



4月20~21日に、日本、ドイツ、オランダ、アメリカの研究開発リーダー10名が枚方本社に集結しました。

粉体関連装置、ミクロン領域の粉体ハンドリングに関する研究開発のみならず、ナノ粒子レベルの最先端分野の知見についても積極的に情報交換を行うなど、国際的な協力体制の構築と連携の強化を図っています。

2005.10. ~ 2006.4. トピックス

2005年10月

高速摩砕式超微粉碎機「スーパーミクロンミレ型」を販売開始。摩砕機構と異成分分離に有効なノズル機構を継承しながら高速化、大幅な省スペース、省エネルギー、低騒音を実現しました。



スーパーミクロンミレ型

2006年1月

固体酸化物形燃料電池(SOFC)の600℃以下での低温作動に成功しました。

2006年3月

機能性ナノコンポジット製品の製造工場を奈良県五條市に建設しました。



新五條工場

2006年4月

PLGAナノコンポジット粒子を用いて、養毛料「ナノインパクト」を開発し、500名様限定の会員募集を開始しました。

日本の著名な学者、研究者からなる委員会の編集により、世界で初めてナノ粒子とそのハンドリングに関するハンドブックを刊行しました。

書籍名 ナノパーティクルテクノロジー
ハンドブック

監修 細川益男

出版 日刊工業新聞社

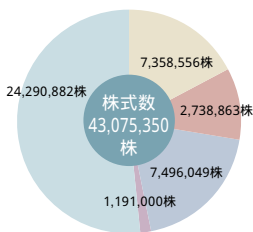


株式の状況

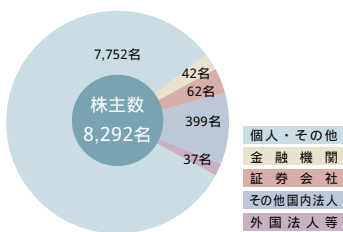
株式の状況（平成18年3月31日現在）

会社が発行する株式の総数	99,347,000株
発行済株式の総数	43,075,350株
株主数	8,292名

所有者別所有株式数



所有者別株主数



大株主（平成18年3月31日現在）

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
細川益男	3,852	8.94
日本証券金融株式会社	3,225	7.48
株式会社栗本鐵工所	3,000	6.96
株式会社ユノインターナショナル	2,952	6.85
細川悦男	1,008	2.34
細川泰史	902	2.09
細川雅代	655	1.52
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	500	1.16
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	465	1.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	455	1.06

(注)東豊産業株式会社は、平成17年12月26日付で株式会社ユノインターナショナルに商号を変更しております。

会社概要

会社概要（平成18年3月31日現在）

商号 ホソカワミクロン株式会社
英文商号 HOSOKAWA MICRON CORPORATION
創業 大正5年4月18日（1916年）
設立 昭和24年8月13日（1949年）
資本金 144億95百万円
従業員数 342名
U R L <http://www.hosokawamicron.co.jp/>

役員（平成18年4月1日現在）

代表取締役社長	細川 益男	C.E.O.(最高経営責任者)
代表取締役副社長	宮田 清巳	C.O.O.(最高執行責任者)
常務取締役	安岡 公道	国内事業担当
取締役	野城 清	C.T.O.(最高技術責任者) 兼 国立大学法人大阪大学接合科学研究所 所長
取締役	荒川 隆	総務本部 本部長 兼 枚方事業所長
取締役	木原 均	海外事業統括 兼 海外事業本部 本部長
取締役	前出 省三	粉体システム事業本部 本部長
取締役	福永 忠道	環境システム事業本部 本部長
取締役	千畑 一郎	社外
取締役	内藤 牧男	国立大学法人大阪大学接合科学研究所附属 スマートプロセス研究センター教授
監査役	浮田 俊太郎	常勤
監査役	國分 紀一	社外
監査役	吾田 啓一郎	社外
執行役員	中村 嘉宏	C.F.O.(最高財務責任者)兼 経理本部 本部長
執行役員	高木 保雄	総務本部 副本部長
執行役員	井上 鉄也	経理本部 副本部長
執行役員	吉田 稔	東京支店長
執行役員	井町 充	メンテナンスサービス事業本部 本部長
執行役員	横山 新	粉体システム事業本部 副本部長
執行役員	花川 忠巳	粉体システム事業本部 副本部長
執行役員	内田 良範	米国事業担当 兼 海外事業本部 副本部長

株主メモ

- 事業年度 10月1日から翌年9月30日まで
- 定時株主総会 毎年12月
- 基準日 定時株主総会 毎年9月30日
その他必要のあるときは、あらかじめ公告をして定めた日
- 期末配当金 毎年9月30日
中間配当金 毎年3月31日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
通話料無料 ☎0120-094-777
- 同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料・フリーダイヤル)

☎ 0120-244-479(本店証券代行部)

☎ 0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公告方法 電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告のホームページアドレス

<http://www.hosokawamicron.co.jp/>

ホソカワミクロン株式会社

本社 〒573-1132 大阪府枚方市招提田近1丁目9番地

電話 072-855-2226 FAX 072-855-2410

URL <http://www.hosokawamicron.co.jp/> 証券コード 6277

表紙 上：多機能型連続式瞬間乾燥装置“ドライマイスタ”

下右：独自開発の機能性ナノ粒子技術を活用したブランド化粧品“ナノクリスフェアシリーズ”

下左：機能性ナノ粒子技術を活用して新開発した養毛料“ナノインバクト”